

Download Text of English by Dr.Kazu

上級英語ゼミ

石田和彦 著



第1講座

“be 動詞”を完全理解する！

学校の授業ではものたりないというあなたへ
英語のしくみをトコトン解説しトップクラスの英語力を養成いたします。高校入試から高校英語の基礎固めに最適の講座です。ビシビシと鍛えますので覚悟してくださいよ！

考える学習をすすめる会

<http://kangaeru.org>

は・じ・め・に

～ただ、何となく英語を学習している人たちへ～

次の英文を読んで、その意味・文の組み立てを考えてみて下さい。

Last year we visited my uncle's farm in Hokkaido to work with his family.

(注) farm 農場

この文の中で、最も重要な役割を果たしている単語は、**動詞** visited です。つまり、この英文は、

Last year we **visited** my uncle's farm in Hokkaido to work with his family.

のように、**動詞** visited が際だ^{きわ}って見えるようにならないとなりません。

なぜ、動詞の役割が最も重要なのか？ **動詞は、他の品詞に比べて情報量が圧倒的に多い**からです。少なくとも、「訪れる」という動作が行われたということ、それが過去の出来事だったということが、**動詞(過去形) visited** から相手に伝わります。

動詞を制する者は、英語を制す。

これを、本書の**一貫**^{いっかん}したスローガンとし、動詞の完全攻略目指して、いざ出陣です！

なお、以降、すべての英文は、**スラスラ流**(考える学習をすすめる会 柳沢達城による命名)という、「**英単語の意味だけで、文の頭から、英文としての語順そのままに理解していく**」やり方で説明していきます。(この方法に関する根本原理を知りたい人は、考える学習をすすめる会発行の「なぜからわかる英語入門」(城内貴夫著)を、英文を自然な日本語に直すのが当然だと思っている人は、メルマガ「目からウロコの英語講座」(石田和彦著)をお読み下さい)。

文の意味を、自然な日本語に直して理解しようとした人…。あなたの英語は、せいぜい中学までしか通用しませんよ。

それから、「上の文中の **work** だって動詞だ」と思った人。確かに動詞の原形ですが、残念ながら、文中で動詞としての機能は果たしていません。これについては機会を改めて、徹底的に取り上げます。

0 . 動詞の種類

英語の動詞には、**be 動詞**と**一般動詞**とがある。この2つを同格(コーヒーと紅茶のように)だと思っている人がいるが、大きな間違いだ。

絶対に、be 動詞と一般動詞を同格に扱ってはならない!

数が違う! … **be 動詞**は1種類しかないのに対して、**一般動詞**は数え切れないほど存在する。数(種類)の上では、**一般動詞**が圧倒的に優位なのだ。

使用頻度が違う! … **be 動詞**は1種類しかないのに、実にひんぱんに使われる。一方、多数存在する**一般動詞**も、1つ1つはそれほど使われるわけではない。

この関係を動物に例えると、1種しか存在しない**be 動詞**は**ヒト**、**一般動詞**は他の**ホニユウ類すべて**といったところか。

be 動詞は、「数」において、**一般動詞**にはとうてい敵^{かな}わないんだ。だから、

英文を作ろうと思ったら、まず一般動詞を使うことを考えよ。当てはまる一般動詞がないとき、初めて、be 動詞を使え。

が鉄則である。この考え方は、**英作文と be 動詞・一般動詞の区別**において生かされる(ページでくわしく触れます)。

今号では、**be 動詞**を特集します。

1 . be 動詞の活用

be 動詞は、英文中において、次のように語形変化する。これを一般動詞 speak と比べてみよう。何か、気がつかないだろうか？

原形	現在形	過去形	原形	現在形	過去形
	is				
		was		speaks	
be	am		speak		spoke
	are	were		speaks	

活用において、be 動詞と一般動詞とでは次の点異なるのだが、これらを強く認識しておかないと、**重要なポイントを見逃してしまう。**

1. be 動詞は、原形と現在形(過去形)が全く似てない。

be 動詞は原形と現在形が似ても似つかぬ形をしているため、**is, am, are は be が語形変化したものであるという点を意識しにくい。**(逆に、一般動詞は原形と現在形が同じ形であるため、区別して考えようとする意識が低くなる。)

2. be 動詞は、現在形・過去形の使い分けが一般動詞より多い。

be 動詞には、現在形で3通り、過去形にも2通りの使い分けがある(一般動詞よりも1通りずつ多い)。

だとしたら、**is, am, are の使い分けの方が、三単現の s が付く・付かないの区別よりややこしいはず。**

be 動詞の使い分けは次の通り。

主語	現在形	過去形
I (私は) のとき	am	was
三人称・単数のとき	is	was
you (あなたは) と複数 のとき	are	were

これらはすべて、**原形 be が姿を変えたものである**ということをお忘れなく。

※ 三人称・単数とは、男1人、女1人、モノ1個のこと。詳しくは次号で。

動詞の語形変化には、3ページの、原形・現在形・過去形以外に、現在分詞・過去分詞、動名詞などがあります。これらについては、今後、項目ごとに特集します。

ただ、これだけは忘れないでください。

原形・現在形・過去形は英文中の動詞になりますが、**現在分詞・過去分詞・動名詞、および不定詞は、動詞ではなくなってしまう。**

くわしくは、それぞれを特集したときに触れますが、この点は今のうちに正しく認識しておいてください。

【練習1】カッコ内の **be** を語形変化させるという点を強く意識して、適する形に直さない。

(1) I (be) free today. _____

(2) You (be) fourteen years old this year. _____

(3) Yumi (be) in Tokyo now. _____

(4) Ken's sister (be) at home yesterday. _____

(5) Tom and I (be) good friends last year. _____

2 . be 動詞の意味

「is, am, are の意味は？」と聞くと(それなりに)答えられる人は多いが、
「be の意味は？」と尋ねると、困ってしまう人も多い。

なぜ、このような現象が起こるのだろうか？ be 動詞を、**原形ではなく現在形から学習し始めたから**である。本来、同じ意味であるはずなのに…。

be 動詞の意味を考えると、キーワードは「**存在**」。

- ① 「(～という)**存在**である」→ ～です(である) … be 動詞の後は「名詞」

I **am** a student.

私は ～という**存在**である (一人の) 生徒。

- ② 「(～という)**存在**になる」→ ～になる

He wants to **be** a teacher.

彼は 欲する ～という**存在**になる ことを (一人の) 教師。

- ③ 「**存在**している」→ いる・ある

Your books **are** on the desk.

あなたの 本たちは **存在**している ～の上に その 机。

- ④ 「(～という状態で)**存在**している」→～です(である) … be 動詞の後は「形容詞」

She **is** very beautiful.

彼女は ～という状態で**存在**している とても 美しい。



この結果、be 動詞の意味は、

- ・「**～です**」(①と④)
- ・「**いる・ある**」(③)
- ・「**～になる**」(②。主に文中の be がこの意味に用いられる)

に分けられるが、もとは一つだったということが理解してもらえただろうか？

なお、6 ページ以降、be 動詞の意味は、「～です」「いる・ある」「～になる」とするが、
キーワード「存在」は、つねに意識してもらいたい。

【練習2】5ページの①～④にならって、次の文中の be 動詞の意味を、「存在」という言葉を使って書きなさい。

(1) They are very busy.

(2) Ken is a good tennis player.

(3) She was in the kitchen.

(4) I will be a high school student next year.

be 動詞の意味（というかはたらき）を、数学の=(イコール)と同じようなものという説明をあちこちで見かけるが、私はこの形を採らなかった。**あまりにも乱暴な説明だからだ。**

I am a student. において、I=a student であるという意見もあるが、a student=I とは限らない。左辺=右辺ならば、右辺=左辺も成り立たなければならないが、生徒は私一人とは限らない。

同様に、She is beautiful. において、she=beautiful という考えは無茶だ。名詞(代名詞)と状態を表す形容詞をイコールでつなごうとしているのだから。

They are in Tokyo. などは、どうすればイコールで説明できるのか、うかがいたい。

be 動詞は一方通行 (⇒) であり、逆は成り立たないのだ。

これが、be 動詞のキーワードを「存在」とした、最大の理由である。

3 . 疑問文と否定文

be 動詞を用いた文の疑問文や否定文の作り方を、今さら説明する必要はないだろう。

○ 疑問文

You **are** a student.

Are you a student?

○ 否定文

I **was** busy yesterday.

I **was** not busy yesterday.

疑問文は、主語と入れかえて be 動詞を前へ出す。否定文は、be 動詞の後に not を付ける。

これらは、あくまで、「be 動詞を使った文の、疑問文・否定文の作り方」である。注意しなければならないのは、「**疑問文や否定文への書きかえができる人**」はいくらでもいるが、「**疑問文・否定文が、なぜこのような語順になっているのかを知っている人**」は驚くほど少ないということ。

両者は、**英文の本質が理解できているという点で、明らかに異なる。**

○ 疑問文の意義 …… be 動詞（原形 be を除く）が文頭に来ることは、疑問文以外ではありえない。つまり、**文の最初の Is や Are を見た(聞いた)瞬間、これは「疑問文なんだ」ということが相手に伝わるようになっている。**こうすることで、「これから質問するぞ」と相手に予告しているのだ。

○ 否定文の意義 …… 日本語だと、文の種類（肯定文・疑問文・否定文のどれなのか）は最後まで聞かないと分からない。特に肯定（～である）なのか否定（～ではない）のかは、早く知りたい重要な情報である。英語では、be 動詞の直後に、否定を表す not を置くことで、**文のかなり早い段階で肯定・否定の意思表示をはっきりさせる。**

このように、英語には、**相手の立場になって、大事な情報をなるべく早い段階で伝えようとする気配りがあるのだ。**



【練習3】疑問文・否定文の意義を考えながら、次の文を()内の指示に従って書きかえなさい。

(1) This is your book. (疑問文に)

(2) They were in Tokyo. (疑問文に)

(3) Tom and Ken are at school now. (否定文に)

(4) She was busy yesterday. (否定文に)

4 . There is (are) ~ の文

be 動詞を用いた文に、There is (are) ~ の形がある。普通は、2語セットで「～がある・いる」と訳されるが、スラスラ流では、

There is a cat under the table.
そこに いる (1匹の) ネコが ~の下に その テーブル。

とする。there 単独で「そこに」、is, are が「いる・ある」という意味になる。

「そこに いるよ (1匹の) ネコが」



までで、いかにも「主語ですよ」という位置にいる There は、単に場所を表す代名詞のようなものであって、**主語ではない**。主語は、a cat である、ということがわかる。

最後の「～の下に その テーブル」で、there「そこ」がどこなのかを具体的に説明している。

この文は、英語本来の語順からすると非常にめずらしい。肯定文なのに、**主語が動詞の後に来る**のだから。

では、これを疑問文に書きかえたらどうなるか？

There is a cat under the table.

Is there a cat under the table?

とする。他に疑問文の作りようがないから、やむを得ずこうしたわけだ。

there は主語ではないから、代名詞に置きかえたりもしない(できない)。だから、答えの文は、

Yes, there is. / No, there isn't.

となる。

まにあっくらむ

There is a book on the desk. の主語は a book。英文の主語は、文の最初に来るはずなのに、ミョーな位置に来ることは、前に述べた。じゃあ、a book を文頭に出して、

A book is on the desk. と言うのか？ 普通はこういう言い方はしない…。ここまでなら、ちょっと気が利いた参考書に載っている。では、**なぜこういう言い方をしないのか？**

主語 a book は「(1冊の)本」。単に、**1冊の本のことを語っても、誰にも理解してもらえないからである**。考えてもみてよ。不特定の1冊の本など、世界中にウジャウジャ存在する。そんなものが「あるよ ~の上に その 机」と言ってみたとところで、伝わる情報なんて一つもないからね。

主語を文頭に持ってくるのは、「**これから誰(何)のことを言おうとしているのかをはっきりさせるため**」。

a book が文頭に来る価値がないって、分かってもらえたかな？

しよーがないから、まず There is … と持ってきて、「そこに あるよ」と**存在そのものをアピールする**。be 動詞を見れば、現在か過去か、単数(または数えられないモノ)か複数かまで分かるところがニクイね。次に、主語 a book が来て、「たいしたモノじゃないことを伝える」。最後に場所を表す語句を添えて、there 「そこ」がどこなのかを言うんだ。

ただし、

The book is on the desk.

という形は、立派に存在する。the の意味は「その」。**この世に1つしかないモノに付ける**。聞き手も話し手も「その本」が何なのか、了解した上で話すのだから、これでいいのだ。

(同じ理由で、My book is on the desk. もOK。逆に、これらを There is ~にはしない)。



5 . 原形 be を使う場面

原形 be は、次のように使われる。

① 助動詞の後は動詞の原形

It is hot today.
(それは) です 暑い 今日。

It will be hot tomorrow.
(それは) ~するだろう ~になる 暑い 明日。

の下線部を tomorrow に変えると、未来を表す助動詞 will を用いて、次のようになる。is の原形 be であることを意識しよう。

② 不定詞(to+動詞の原形)

I am a doctor.
私は です (1人の) 医者。

I want to be a doctor.
私は 欲する ~になることを (1人の) 医者。

不定詞に関しては、別の機会に特集するので、必要最小限の説明を。

・ここでも、am の原形が be であることを意識しよう。

・上の文で、現在形 am は文中の**動詞になる**が、下の文における動詞は want。不定詞は、動詞の原形を使ってはいるものの、to be の be は**文中の動詞にはなれない**。

③ 命令文(主語がなく、動詞の原形で始まる)

You are careful.
あなたは です 注意深い。

Be careful.
~になれ 注意深い。

3ページの④を思い出してほしい。この命令文は「注意深い(という状態)になれ」と命令しているのだ。英文を自然な日本語に直して喜んでる(?) 連中は、「注意深くしなさい」だのひどいケースでは「注意しなさい」だのと訳すが、このように訳した瞬間、**be 動詞は死んでしまう**。

まにあっくらむ

クラーク博士の有名な言葉「少年よ、大志を抱け^{いだ}」。これは、Boys, be ambitious! を日本語に訳したものである。

これは、「名訳」ではあるが「正確な訳」ではない。

ambitious の意味は、「大望を抱いた」という状態を表す形容詞。意欲的な、野心的なという感じの意味である。

Be ambitious.

～になれ 大望を抱いた。

つまり、「大望を抱いたという状態になれ」と命令しているのだ。“大志を抱ける状態”になっているだけでもいいのだ。

それに対して、「大志を抱け」は、実際に大きな希望を持たねばならぬ。もしそうなら、クラークさんは、

Have an ambition.

持つ (一つの) 大望を。

とおっしゃったはず。ambition は「大望」という意味の名詞である。

命令文というのは、何かを強制しているわけで、

- ・Be ambitious. は、ある**状態になることを強制している。**
- ・Have an ambition. は、**動作そのもの** (この場合は have「持つ」という動作) **を強制している。**

…なんか、「まにあっくらむ」にふさわしい話になっちゃったね。実際、英米人はここまで意識していないと思うけど。

10 ページに、be **動詞が死んでしまう**って書いたのは、こんなこだわりがあるからなんだ。

6 . be 動詞と一般動詞の区別

be 動詞と一般動詞の使い分けがうまくできないとお嘆きの人も多いと思う。原因として考えられることは、

- ア. なんでもかんでも be 動詞を使って文を作ろうとする。
- イ. 1つの文中には、原則として動詞は1つであるという点を認識していない。
- ウ. 日本語の意味に頼りすぎる。

初歩的な問題で考えてみよう。「私はサッカーが好きです」を英文にするとどうなるか？
主語 I はいいとして、問題はその後。無意識のうちに

I am … の形が思い浮かんだ人は要注意 (アのケース)。それから、

I am like … などとする人は、イのケース。be 動詞 is と一般動詞 like。2種類の動詞の現在形を並べて用いるわけがない。

結局、このような重大な間違いは、日本語の意味に頼りすぎるから発生するのだ。「好きです」の「です」につられて、思わず be 動詞を思い浮かべてしまう。

もっとも、like の意味を「好きです」とはせず「好む」とすれば、このような現象は防げるのだが…。

テストや入試で作文問題が出されるケースが多い。2ページにもあるように、自分で英文を作るとき、

その意味にふさわしい一般動詞を使うことを、まず考えよう。使えそうな一般動詞がないとき、初めて、be 動詞の出番になる。

Dr. Kazu の発音講座 そによ1

次の2つの単語を、実際に声を出して発音してみてください。

bat

but

「どっちも『バットウ』。同じじゃん」って人。キミの発音は全然ダメだよ！

英単語の発音を、カタカナで書き表す方法には限界がある。英語をより英語らしく発音しようと思ったら、**発音記号をマスターしよう**。上の2つの単語の発音記号は、

bat

but

[bæt]

[bʌt]

となり、違いは一目でわかる。発音記号なんて読めないよって？ じゃあ解説しよう。

- ・ [b] は「バ行」を表す子音。
- ・ [t] は「タ行」を表す子音だが、最後に[t]がきたら、「トゥ」と、はじくような感じで終わらせる。ウ段の音は残らない。
- ・ [æ] … **「ア」と「エ」の中間の音**。「エ」の口の形のまま「ア」と言う。口の前の方で音を出す感じ。強い音。
- ・ [ʌ] … **「ア」と「オ」の中間の音**。「オ」の口の形のまま「ア」と言う。口の奥の方で音を出す感じ。暗い音。

極端にやると、bat → ベア-(っ)トゥ

but → ボア-(っ)トゥ

これを、少し早く言うてみればいい。

ローマ字ほどキチンと決まっているわけではないが、**英語にも、発音とスペルとの間に規則性がある**。[æ]と[ʌ]については、

- ・ [æ] … a を「ア」と発音するとき(例外アリ)
- ・ [ʌ] … o, u, ou を「ア」と発音するとき

次の単語を、[æ](アとエの中間の音)、[ʌ](アとオの中間の音)を意識して発音練習してみよう。

hand

come

run

ran

[hænd]

[kʌm]

[rʌn]

[ræn]

練習問題 解答&解説

【練習1】

- (1) I (am) free today.

主語が I で, today 「今日」は“現在”だから, be は, 現在形 am に変わる。

- (2) You (are) fourteen years old this year.

あなたは 14 年(たち) 古い この 年。

主語が you で, this year 「この 年」は“現在”だから, be は, 現在形 are に変わる。

ふつう, ~ years old を「~歳」, this year を「今年」と訳すが, スラ斯拉流では, 単語にバラして意味を考える。人間が「14年古い」ってどういうことか考えてみればよい。

years のような複数形には, すべて「~たち」を付ける。

- (3) Yumi (is) in Tokyo now.

主語が Yumi (三人称・単数) で, now 「今」は“現在”だから, be は, 現在形 is に変わる。

- (4) Ken's sister (was) at home yesterday.

主語は sister (三人称・単数)。Ken's は「健の」だから主語ではない。yesterday 「昨日」は“過去”だから, be は, 過去形 was に変わる。

- (5) Tom and I (were) good friends last year.

トム と 私は だった よい 友人たち この前の 年。

主語は Tom and I。2人のことを言っている。last year は“過去”だから, be は, 過去形 were に変わる。

last year もふつうは2語セットで「昨年」と訳すが, last だけで「この前の」という意味。

【練習2】

- (1) They are very busy.

~という状態で存在している

- (2) Ken is a good tennis player.

~という存在である

(3) She was in the kitchen.

存在していた

(4) I will be a high school student next year.

～という存在になる

【練習3】

(1) Is this your book?

(2) Were they in Tokyo?

(3) Tom and Ken are not at school now.

(aren't)

(4) She was not busy yesterday.

(wasn't)

よく、疑問文の後の「？」を付け忘れる人がいる。**これはケアレスミスではない！**
疑問文に書きかえているんだという意識が足りないから起こるのだ。

これらの練習問題は、どの問題集にも載っている、ありきたりのものだ。これを暗記した知識の確認ドリルととらえるか、**考える学習にまで高めるか**が、大きな分かれ目となる。

お・わ・り・に

考える学習をすすめる会の柳沢氏から、今回の企画を切り出されたとき、私は迷わず動詞にスポットを当てることにしました。**英文において最も重要な「動詞」の役割を多くの人に知ってもらいたい。**筆者の切なる願いだったからです。

配列については、悩んだあげく、be 動詞をトップバッターとしました。英語の参考書の多くが be 動詞からスタートしているからではありません。

be 動詞のことをよく知らないのに、問題は解けるとい人があまりにも多いからです。

意味は知っているし、使い分けや書きかえもできる。にもかかわらず、**本質的なことは何も理解していない。**

本書は、このような人に「目を覚ましてもらうこと」を目的の一つとしております。

さて、次号以降についてですが、次のターゲットは「一般動詞」。現在形、過去形の順に扱っていきます。もちろん、本文中にある通り、分詞や不定詞の特集も予定しております。

動詞の本質を知るといことは、**英語の本質を知る**ための大きな足がかりになります。

これからも皆さんといっしょに、**英語について考えていきましょう。**